

先端科学技術研究科 修士論文要旨

所属研究室 (主指導教員)	知能コミュニケーション (中村 哲 (教授))		
学籍番号	2111269	提出日	令和 5年 1月 18日
学生氏名	安川 浩貴		
論文題目	ペルソナ対話システムにおけるVAEを用いた過剰な条件付けの緩和とユーザベクトルの分析		
要旨			
近年、人の対話欲求を充足させることを目的とした対話システムを、大量のデータを用いて行われる機械学習によって実現する試みが盛んに行われている。このシステムを実現するための一つの課題として、プロフィールや言語的行動などの人物的特徴の一貫性のある反映が挙げられる。この課題を解決するために、近年ではユーザの性質を数文程度の文章で表したペルソナ記述文と対話文脈を連結して対話モデルへ入力し、応答文との対応関係を学習する手法が主流となっている。しかしこのような手法ではペルソナ記述文と応答文の表層的な対応関係が学習され、意味的な対応関係を学習できないという問題がある。またペルソナ記述文に過剰に条件づけられた応答が生成され、多様性のない応答を生成してしまうという問題も見られた。よって本研究では、過剰な条件付けの緩和及び多様な応答の生成を目的とし、ペルソナ記述文からユーザの特徴を表現したユーザベクトルを獲得するVAEとユーザベクトル及び対話文脈を入力として応答文を生成する返答文生成モデルからなる対話システムを提案した。実験では提案手法を用いることで、過剰な条件付けの緩和と多様な応答の生成が可能な事を確認した。また獲得したユーザベクトルの分析も行った。			